

天明まちづくりセンターだより

発行／熊本市南区天明まちづくりセンター 〒861-4125 熊本市南区奥古閑町 2035 TEL223-1117 FAX223-3275

夏の天明まつい・天明地域市民のつどい

7月21日、天明まちづくりセンターにて環境と健康をテーマに夏の天明まつりを開催しました。併せて天明地域市民のつどいも同時開催されました。

環境ブースでは、天明環境保全隊や加勢川開発研究会の水生生物やパネル展示、花苗や廃油石鹸の配布がありました。天明グラウンドで開催した「地球の道プログラム」にもたくさんの児童生徒の皆さんに参加いただきました。また、健康ブースでは、福田はり灸ケアセンターさんと南区保健子ども課による健康チェックがありました。ステージでは、銭塘太鼓、小中学校や公民館自主講座、天明文化協会の皆さんの発表がありました。食のブースも地域の皆さんを中心に盛り上げていただきました。

多くの皆さんのご協力とご来場ありがとうございました。



中緑校区 道古閑地区 健康チェック

7月29日、道古閑公民館にて道古閑地区主催の健康チェックがありました。「100歳になっても自分の足で歩いて、健康な生活を送ろう」をコンセプトに、血管年齢や足の筋力測定、100歳体操が行われ、また、保健師さんによる「地区の高齢化の現状」についての講話がありました。地区の皆さん約20名が参加され、測定結果に一喜一憂されていました。



天明の歴史シリーズ6 奥古閑校区 干拓地を襲った大潮害

第6弾「干拓地を襲った大潮害」の紹介者は吉村正美さんです。

奥古閑は、古くは「沖の古閑」と呼ばれていた。現在の内田川沿いの唐津塘から、東は上中沖、中沖(現在1町内)、下沖(2町内)、北沖(4町内)の4集落からなっている。干拓は今から660年前に始まり、現在の校区の姿は480年前に形成された。唐津塘から西に沿った現在奥古閑小の建つ南北に長い一郭が「古閑」と呼ばれていた。建保5年(1217年)に大慈禅寺を建立された寒巖禅師は出生された。父君は後鳥羽上皇である。禅師は、弘安7年(1287年)銭塘50町の荒野を開拓との記述がある。その頃、奥古閑はまだ有明海の中の干潟であった。明德5年(1394年)に初めて「奥古閑」の地名が登場する。天正16年(1588年)に加藤清正が領主として隈本城に入った。おそらく干拓も実施され、現在町内の地番は、「加藤」となっている。慶長12年(1607年)に奥古閑村の検地を実施。寛永12年(1633年)細川忠利入封。以降海路の干拓が進められた。

昭和2年9月、未曾有の大潮害が干拓地を襲った。満潮時と重なり、堤防を破壊した。台風の推測風速55メートル。

有明海を横切り玉名郡横島あたりに上陸した。高潮による潮害での死者は、海路口で111名。全体で死者413名。2600戸流失した。当時、奥古閑小は480名の児童が在籍し、学校の対応で難を免れた。しかし、海路口村の保護者6名が連れ帰った児童全員が溺死した。毎年溺死者の法要が二の丸(奥古閑8町内)の復興記念碑の前で行われている。



第65分団中緑 消防操法大会 敢闘賞受賞

7月22日、熊本県消防学校にて熊本市消防操法大会がありました。小型ポンプの部に65分団中緑校区(分団長瀬戸口雄二郎さん)指揮者龍野史也さん、田添慧吾さん、島崎友樹さん、園村慎吾さん、下田幸志郎さんが出場し、見事敢闘賞を受賞されました。また、市を代表して選手宣誓をした指揮者龍野さんは、「分団では大会のために5月から何度も練習を重ねてきました。」と話していました。



川口校区自治協 特別講演会のお知らせ

糖尿病とメタボリック症候群～どんな病気か?～

- 日 時：平成30年9月27日(木) 19時から20時半
- 場 所：天明公民館 2階 A会議室
- 参加方法等：どなたでも 申込み不要 直接会場へ 無料
- 講 師：熊本市市民病院 代謝内科部長 樋川岩穂先生
- 主 催：川口校区自治協議会 健康づくり部会